



写真 ©Plan International / Vivek Singh

この調査は、1万人近い女の子と若い女性を対象にした、女性リーダーについての詳細な調査である。彼女たちがリーダーになるには何が必要か、彼女たちにとってリーダーシップとはどういう意味を持つのか、そして家庭や職場、コミュニティ、自国において、彼女たちが自分の人生や未来を自分で決めるのを助けたり妨げたりする要因は何か？

「私が考える女性リーダーは差別のない平等な社会を見据えています。彼女はジェンダーや障がい、人種に基づく差別を止めたいと願っています。それが、彼女の理想の未来です」

日本の女の子

リーダー像

女の子たちが定義するリーダーとは、社会的正義とジェンダーの公正を目指して努力し、集団的に意思決定を行い、他者をカづけ、支援する人である。

彼女たちが提案するのは、公共善を目指す力としてのリーダーシップである。すなわち、リーダーシップとは、女の子と若い女性のための前向きな変化をもたらすことを意味している。しかし女の子と若い女性が現実目にしている状況は、あまり勇気づけられるものではない。

力と支配—家庭内や地域、企業、国レベルで誰が意思決定を行うか—という意味では、彼女たちのリーダー像とジェンダー平等の実現から、現状はほど遠い。

社会のすべての階層においてロールモデルとなる女性がいなかったり、女の子たちの夢を限定してしまう。それはつまり、リーダー像を変えることが、より難しくなるということである。

調査結果

- ・女の子たちは、リーダーになりたいと願っている：女の子と若い女性の76%が、自国や地域コミュニティ、職場でリーダーになりたいと思っている。
- ・女の子と若い女性はリーダーシップを独自に定義している：彼女たちにとってリーダーシップとは独裁的で支配的ではなく、協力的で前向きな変化をもたらすものである。
- ・女の子と若い女性は、リーダーシップの能力に自信を持っている：まったく自信がないと答えたのはわずか5%で、62%は自分のリーダーシップの能力に自信があるか非常に自信があると答えている。
- ・仕事に対する意欲は教育や社会的地位とともに増加し、結婚とともに減少する。
- ・女の子はロールモデルや支援者としての家族の役割を期待している：家族の支えだけでは不十分だが、それなしに前進と平等な参画を実現することはほぼ不可能である。

- ・ジェンダー差別、あからさまな性差別や偏見は、すべて障壁であり、女の子だけが仕事と家庭生活の両立を強いられることにつながっている。
- ・女の子と若い女性の60%が、尊敬を勝ち取るために男性よりももっと努力しなければならず、全体として、女性リーダーのほうが厳しい批判を浴びると考えている。
- ・93%の女の子が女性リーダーは不必要な身体的接触を受けているのではないかと懸念している。
- ・リーダーの地位にあっても、女性は男性と同等の扱いを受けていないと94%が考えている。
- ・実際にリーダーの地位を経験した若い女性はしばしば、リーダー経験が少ない、またはない女性よりもジェンダー差別にあう可能性が高いと報告している。

※本文中のすべてのパーセンテージは、もっとも近い整数に四捨五入されている

おもな提言

「私にとって、女性の居場所が家だけというのは受け入れがたいことです。

女性は教育を受け、国を変えることに参画すべきです」セネガルの若い女性

若いリーダーの育成を家庭から始めること

・政策決定者や市民社会組織は家庭や地域の指導者、地域コミュニティと協力し、**性差別やその他の差別に取り組み、リーダーになりたいという女の子の願望を叶えるために強力な支援ネットワークを構築しなければならない。**女性のリーダーシップは子ども時代から始まり、思春期を通じて強化されるべきである。

・母親、父親、兄弟は皆、家庭内でも地域コミュニティでも、応援者としての役割を果たすことができる。父親と兄弟はジェンダーの偏見をなくすため、家事や育児の責任を共有するべきである。

・コミュニティと政府のリーダーは、女の子と若い女性が自分たちにとって重要な問題を話し合える安全な場所をつくり出さなければならない。

新しいリーダー像を示すこと

・権力を持つ側は、リーダーシップの**概念を変えるべきである。**政府、民間組織、メディアは具体的な例やキャンペーンを通じて、**女の子と女性が意思決定と権力の場に参画しているという明確なメッセージを伝えなければならない。**

・政府、企業、市民社会組織は**リーダーの地位にある女性と若い世代とをつなぐメンター制度やその他の方法を支援し、世代を超えて交流できる場を提供するべきである。**

・特にメディアは、女性リーダーに対する固定観念を作り出している自らの影響力を強く認識しなければならない。**多様性、ポジティブなイメージ、肯定的な言葉を発信することによって、女の子と若い女性は勇気を得ることができる。**

・より多くの女性がリーダーとなって、意思決定の場に参加し、女の子が必要とするロールモデルになれるよう、**公共政策と法律に大きな変更を加えなければならない。**

・すべての雇用主は、公式なプロセスにおける**ジェンダーの偏見を認識のうえ、対処し、若い女性に機会を与えるべきである。**

性差別やその他の差別に取り組むこと

・政府や職場は、あらゆる年齢層の女性リーダーが受けているセクシュアル・ハラスメントや暴力に対して、既存の法律や政策を徹底し、通報の仕組みを強化することで**予防と対応のための確固とした対策を講じるべきである。**

・女性に対するあらゆる形の暴力に反対するキャンペーンは、資金を受け、促進されるべきである。男の子と男性も**仲間となり、支援者となってジェンダー平等と女性のリーダーシップを奨励し、性差別的態度は容認されないことを認識するべきである。**

女の子の成功を支援すること

・政府、国際組織、学校運営組織やその他の主要関係者は**女の子が学校に通いやすく、より幅広い教育的機会を得られるようにしなければならない。**そのためには安全な空間やメンター制度、必要なツールやリソースの提供、そして現状改善への支援が必要である。

・教育省は教育現場内外で**あらゆる形のジェンダーの偏見と差別をなくし、学習教材がリーダーの役割やスタイルについて偏見を助長することのないように保証しなければならない。**

・政府と市民社会は**女の子と若い女性のネットワークと若者主体の市民活動を支援し、奨励しなければならない。**若者たちが主体となり起こす行動が、思春期の女の子が社会の意識変化を推しすすめるということを認識するべきである。

本調査について： Geena Davis Institute on Gender in Mediaとプラン・インターナショナルによる本調査は、世界の19カ国に暮らす1万人近い女の子と若い女性の声を聞いている。データはアンケートと、5カ国でのグループ・ディスカッションで収集された。グループ・ディスカッションでは、参加者は若い女性リーダーがどのような資質を持つかを考え、自分の生活の中で影響を与えてくれる人をあげた。アンケートにはリーダーになりたいという意欲があるか、リーダーとなった経験があるか、リーダーになる自信があるか、応援を受けているか、ロールモデルとなる人物はいるか、差別はあるかといった10の質問からなり、若い女性に仕事、国、地域、家族という分野で、リーダーになる意欲について尋ねたものである。